

1. 2017年3月1日 成田 22:20 発

2. 3月2日

○ドーハ（カタール） 4:30 着.

初めて中東の地に降り立つ。出発前は多少不安であったが、空港内はいたって平和な様子…

【カタール】多国籍国家（人口の80%が外国人）。国民の労働意欲は低く、多くは賃金の安い東南アジア等からの出稼ぎ労働者が担う（添乗員談）。

中東のハブ空港化を目指して周辺国としのぎを削っているとのことであり、空港内の無人電車もその一つと思われる。

○ドーハ国際空港内



ドーハ空港内の移動用無人電車



サンドイッチ 810 円（日本の約 3 倍…）



オブジェ…



熊のオブジェ…

○カイロ（エジプト）11:45 着.

北にシリア，南にスーダン．危険情報（外務省）に基づき，しばらくツアー企画が中止されていたが，今回解禁され参加．

出発前・後のテロ事件発生，帰国後の危険情報レベル上昇など依然として不安定な情勢が続く．

バスでの移動は常にセキュリティポリス（ライフル2丁携帯）が同乗．メルケル首相（ドイツ）の訪問と重なったこともあり，道路には数十 m 置きに警備員を配し，所々に設けられた監視塔からはライフル銃が向けられていた．

“経済破綻”という危機的状況での出費ではあるが，観光産業（GDP の 1 割）等を守るにはやむを得ない・・・．フランスでもライフル銃を構えた軍隊が常時市内をパトロールしており，日本の安全を改めて認識する・・・

現地の子供は人なつっこく，我々に大きな歓声をあげる．ただし，半分以上は“チャイニーズ”との呼び声（ここでも中国パワーが・・・）．ちなみに“コリアン”は一つもなかった．学校にいかず，親の手伝いをする子も多い．



監視塔と警備兵／警察



カイロ市内

○モハメド・アリ・モスク



モスクは丘の上の城塞（シタデル）内・・・



モスクを囲む城塞外壁



モスク内は土足厳禁



他の遺跡を含め、全体に補修が追いつかない模様・・・
／文化財を取り扱う姿勢も日本ほど細かくない様子



マイダー（日本の手水舎に相当）



動かない時計：パリ（コンコルド広場）に贈った
オベリスクの返礼品



モスク内（中央に柱のないドーム構造）

絨毯の上に車座となり，現地ガイド（日本で通訳としての勤務経験有り）のお話を聞く…

○宗教はイスラム教（9割）とキリスト教他．日本のようにお互いに寛容とのこと．

○礼拝はイスラム教の重要な5行の一つであるが，強制されることはない

早朝，礼拝の始まりを知らせるアナウンスが市内中響き渡るのであるが，基本的に各自の自主性を重んじており，昼間，突然ひとりの店員が床に跪き，メッカ方向に向かって礼拝を行うことも…

○多くのイスラム教徒は“スリ”をしないとのこと，お陰で.ロンドン，パリのようになんか身構えることもなかった．

“イスラム”に対する認識も変わった…

○カイロ市内



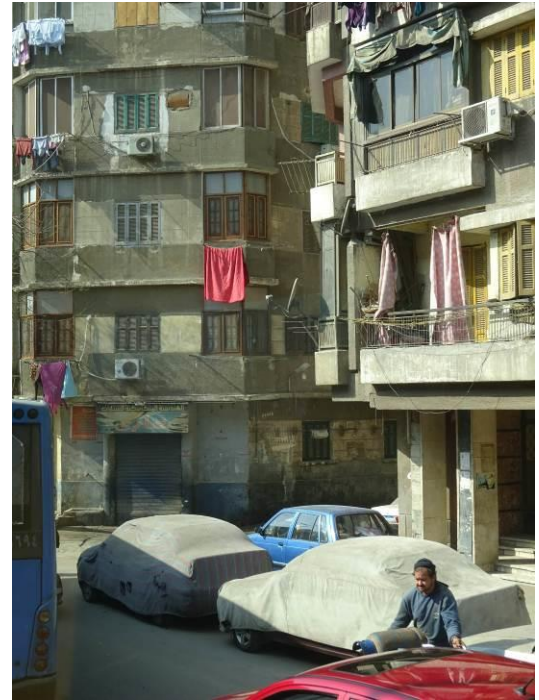
オールドカイロ：カイロ発祥の地，キリスト教徒の街．
周囲の開発から取り残された様相・・・．屋上の瓦礫や
むき出しの鉄筋は，家族が増えたときの増築用資材
(ペルーと同じ)



街路樹（屋根状に枝を剪定？）．
幹には虫除け用の薬剤？を塗布



煉瓦造りのビル



ほとんどが路上駐車
密着状態であり，移動する時の方法？



移動式防護壁（テロ／暴動対策？）



ホテル内：本物の椰子，複数の瓶を利用した生け花

3. 3月3日 カイロから空路アブシンベルへ



アブシンベル空港



ナセル湖（ナイル川）



石張り（石灰岩？）…護岸等にも採用

○アブシンベル神殿



アブシンベル大神殿（世界遺産第1号）
入り口に差し込んだ太陽光が神殿奥の像（冥界神以外の3体）を照らす精密な造り…



アスワンハイダムによる埋没を避けるため、湖面位置から60m程度上部斜面に移設（写真全体が人工物）



全体をのこぎり（人力）で分割，移動させるというスウェーデンチームの案により完成（ブロック状に切断した跡が認められる）



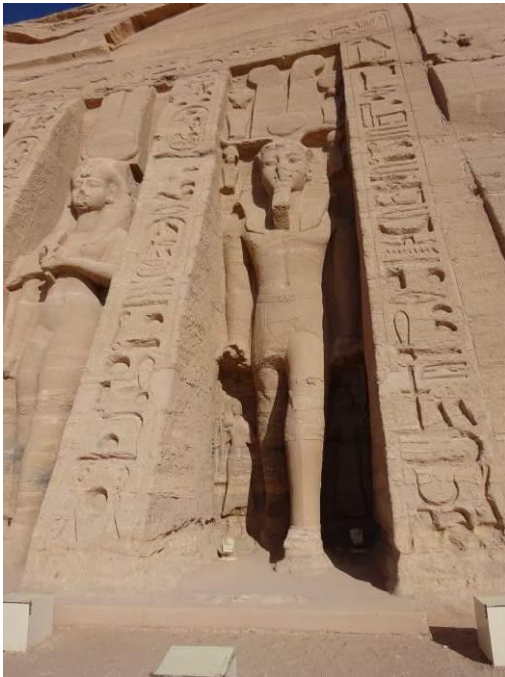
小神殿



ナセル湖：石灰岩？（水平状）
…元の神殿位置は水際付近



所々角錐状の浸食地形が認められ“ピラミッドはこれを模したもの”と確信した…（ピラミッドはカイロのギザ地区にのみ存在）



左足を前に踏み出す姿は生きていることを示すもの



砂漠の砂によるアート（ガラス瓶の中に彩色した砂を細かく詰めることで、ラクダ等を描くという感動もの）



空路アスワンダムへ移動

強風で砂が舞い上がり視界が悪かったが、豪雨時の河川跡（ワジ）が無数認められた（国土の9割が砂漠地帯）・・・（黒い部分は頁岩類？）

○アスワン・ハイダム



堤体下流側(ナイル川. 6.4km 下流にアスワン・ローダム)



堤体(延長3.8km)・・・左がナセル湖
ナセル元大統領は今でも英雄・・・



紆余曲折を経て、最終的にソ連の支援で建設・・・



軍隊施設？
過去の紛争を踏まえ、軍隊による厳重な警備が行われている



街路樹等の多くは定期的に水やりが行われている。
・・・維持管理費も相当なものが予想され、樹冠頭部を
カットするのは節水のため？



石張(エジプトの標準仕様？・・・)

○切りかけのオベリスク



切りかけのオベリスク（長さ 42m, 花崗岩）

完成すれば最大級のものとなったが、ひび割れのため断念。切り出す溝は閃緑岩(?)で掘削。地山との分離に成功したとしても、直下のナイル川につながる水路まで、折損することなくどのようにして運搬したのか…。4年を費やしたとのことであるが、気の遠くなるような作業である。

しかしながら、鉄製品なくして硬岩の掘削や、加工(研磨)が可能であろうか。閃緑岩で穿孔したとの説明を受けたが、具体的な道具状のものは見あたらない…

鉄隕石説が最もらしいが、量的に足りたのか疑問である。特に掘削面が表面に沿って波打っており、砂鉄(／砂)を集めて砥石でこすり付けるなどの方法が思い浮かべられるが…。少なくとも研磨する方法としては適している。

○クルーズ船にてアスワンからルクソールへ



アスワンの港 (ナイル川)



市内の建築現場



クルーズ船内 (原住民に踊りを教わるツアーの人達)



部屋は水面際



清冽とは言い難い透明度 (汚水の放流...)
水深は3~5m. クルーズ船の運航が可能のようにダム水を放流することで調整.



小舟による漁
昼間の漁船はあまり見かけなかった (水面を叩くことで魚を取り込む漁法). 農業も機械化が遅れているように思われた.



ルクソールまで 240km (橋は数本)



ナイル川周辺は砂岩主体でほぼ水平状



川岸は概ね露岩する



日の出



陸上のホテルより安心 (人の出入りは厳重に管理)



川沿いの緑地
オアシスと呼ばれるところは都市化したとのこと



エスナ水門 (明るい位置. 水位調節用, 落差 6m) 通過.
水圧を利用するためか, 水門からの漏水はなかった.



岸壁に衝突しないよう, ロープで微調整



灌漑用ポンプ



船内からは、ほとんど農地を見ることができなかった



ODAによるポンプステーション
26箇所構築された模様。ちなみに日本以外のものは見かけなかった。



車と違って退屈な気もするが、素人目にも浅瀬
が分かり、以外と気を遣うかも…



橋の建設



護岸（石張り）はほとんどない



水制（1箇所発見）